

## 平成27年度 第55回全国審判講習会参加報告

南支部 福原昌宏

4月25、26日の二日間、阪神甲子園球場にて行われた全国審判講習会に参加させて頂きました。非常に貴重な経験をさせて頂き、この場を借りて関係者の皆様へ感謝申し上げます。

この時期には珍しいとのことですが二日間とも晴天に恵まれ、憧れの甲子園球場で目一杯走り回ることができました。

受講者は北海道から2名と各都府県から1名の合計48名で6班に分かれ、講師は赤井委員長他25名の方々からご指導いただきました。近くに講師の方が常にいるので、各場面での考え方を聞いたり、疑問に思ったことを確認することができました。

まず初めに、赤井委員長から以下のお話を頂きました。

今年の重点実施事項では「白い線には意味がある」と書いた。線の意味を理解してほしい。例えばスリーフットレーンは完全に閉じられていないが、その意味についても考えてみてほしい。

各地の講習会にお邪魔しているが、仕上げの四人制のキャンプゲームではいつも崩れてしまう。今年の講習会では三人制を取り入れる。常に周りを気にしなければならず顔が下を向く暇がない。三人制を経験することで四人制の精度を高めてほしい。

その後、実技へと移りました。実際にいろいろな講師の方からお話を聞くと、「正しい判定」をするために皆さんそれぞれ研究され、様々な方法を考えて試していると感じました。

また、講習会は手引きに書いてある基本を確認するためのものだが、手引きはあくまで「こうしたら良い」というものであり、各自手引きを確認しながら研究し、より良い判定ができるようにしてほしいとのことのお話を頂きました。

まずは基本に忠実に、そして教わった様々なことを実践して、自分に合った方法を追及していく必要があると思います。

基本的なことは手引きに記載されていますので一つ一つ記載しませんが、私が学ばせて頂い中でポイントと思われることをいかに記載致します。ただし、これがすべてというわけではなく、一つの考え方として参考にして頂ければ幸いです。

### ○三人制フォーメーション

委員長のあいさつにもありましたが、今回の講習会では三人制のフォーメーションを重点的に行いました。三人制は打球を判定した後すぐに走者もカバーする必要があるとともに、一人で複数の走者を確認しなければならないため困惑する場面が多くありましたが、視野を広く持つようになるためには非常に有効だと感じました。

実技と座学で行われましたが、ポイントになると思われる点について以下に記載します。

- ・三人制は視野が広がるため、四人制につながる。手引きに三人制メカニクスが復活したのは

1. 遊撃手側の内野に位置する塁審の基本
2. 打球に対する判断
3. 空いた塁へのカバーリング

など、四人制のメカニクスをさらにグレードアップするためのものであり、ハンドブックとは多少違う。

- ・各地区の講習会を三人制でやれと言っているわけではないが、二人制・三人制を経験して、さらに判定技術の向上に努めてほしい。
- ・走者一塁、一・三塁、満塁の場合、三塁塁審が遊撃手側に入る。
- ・走者一・二塁、二塁、二・三塁の場合、一塁塁審が二塁手側に入る。(ハンドブックでは走者一・二塁の場合三塁塁審が遊撃手側に位置するが、高校野球では盗塁やバントのケースが多いので一塁塁審が二塁手側に入ることとしている)
- ・内野内に位置した塁審は基本的にワーキングエリア(マウンド後方のエリア)に留まってプレイを確認する。
- ・打球判定については、追うべき打球か否かを判断する必要がある。トラブルボールは追って判断する。ただし、四人制の時のように深追いはしない。内野内に位置した場合は追ってもベースラインを超えないこと。イージーボールは追わずにその場で判定する。
- ・抜けていくような打球は判定不要だが、まずは打球判定が大事。まずは打球方向へステップアップし顔を向ける。
- ・ハンズ・オン・ニーはタッチプレーとフォースプレー。ボールがあり、走者がいて、プレイがそこで起こる場合のみ。その他はスタンディングで常にアップライト。
- ・走者の触塁確認は凝視せずに動きながら「ちらっと見る」ようにするが、触塁だけではなく塁の近くのプレー(野手との接触など)を見ること。
- ・走者一・二塁では一塁塁審が内野内に位置するため、二塁→一塁のダブルプレーの場合、一塁塁審が両方とも判定することになる。二塁フォースプレーを判定した後、45フィート方向へ移動し、一塁のフォースプレーを判定する。もし二塁でオフザバッグとなった場合には、一塁の判定後に再度二塁方向を向いてオフザバッグのジェスチャーをする。
- ・他の審判との合図の交換も必要となるが、「オッケー」と声を出すと、選手が勘違いして止まってしまう場合があるので、あまり言わないほうが良いのではと感じている。日本語で「まかせた」などなら大丈夫かもしれない。(日野さんより)

#### ○球審の基本動作

- ・守備の要が捕手ならば、試合の要は球審である。「よし、さあ来い」という気持ちで投

球判定するとともに、アグレッシブに動くことで試合が引き締まる。

- ・マスクオフして走る場合には、マスクを持っている左腕もしっかり振ることを意識する。しっかり腕を振ることで足も上がり、格好良くなる。格好良くすることが目的ではないが、見た目が良い方が信頼される。

#### ○投球判定

- ・トラッキングについて、捕手のミットにボールが収まる場所まで目で追いつけるように言われているが、本来であればホームベースの上方空間で判定するので、そこで写真撮るように目を止めることになる。ただし、投手の手から離れたところからずっと投球を目で追うための練習としてミットに収まるまでしっかり見るようにしている。
- ・ゲットセットの際は球審の顎が捕手の頭よりも上にあるように構えるが、各個人が自分の高さを持っており、捕手の大きさが変わっても球審の構えの高さは変わらないことが多い。ホームベースがしっかり見えるように捕手の大きさに応じて構える高さも変えるように心掛ける。
- ・低めすれすれのファールチップやインコースの打者に当たるか当たらないかの投球に対しては、顔を動かすなどアジャストして見る努力をすること。甲子園で球審をしている我々はそういった努力をしている。
- ・講習会では次の人が外角のコースを確認し、入っていたか否かを伝える。これによって外角の感覚をしっかり身に着ける。

#### ○一塁フォースプレイ

- ・スターティングポジションは野手の邪魔にならない位置で、ベースに近い位置をとる。
- ・プレイポジションは送球に対して90度。
- ・タッグプレイになりそうな場合は野手と走者の間が見えるようにアジャストする。何でもかんでもライン際に動くのではない。下手に動かないほうが見えやすい場合もある。
- ・送球が暴投になった場合には、打者走者の動きに注意する。

#### ○二塁フォースプレイ

- ・常にボールに正対するように動くこと。
- ・二塁手側に位置しているときに、一塁線へのバントに対して送球線を横切って移動してしまう人がいるが、相当一塁側まで転がらなければ邪魔になることはないので、下手に動かないほうが良い。動くのであれば打球を処理する前に素早く動くこと。
- ・コールのタイミングが遅くなりすぎないようにする。投げ終わってずいぶん経ってからのコールでは間が抜ける。アウトが確定するタイミング（送球を確保して投げ手に移るタイミング）でコールする。

#### ○盗塁判定

- ・二塁への盗塁の判定は4ステップで移動する。移動の際送球線上に入らないように注意すること。大きな歩幅で移動すると送球線上に入ってしまうので、小さな歩幅を心掛ける。
- ・三塁への盗塁の判定は打者が打たないことが分かったタイミングで素早く1歩目をステップすることが重要。

#### ○本塁周辺のプレイ

- ・ボールを持った捕手は塁線上に位置することができるが、レガースを使ってブロックすることは許されない。シートノック時の捕手を見ていると送球を受けた後にブロックに行く姿をよく見かける。(実際にモデル校の捕手にどうやってタッチに行くかやってもらったところ、半数以上がブロックしていた)これを直すように日頃から注意してほしい。
- ・本塁周辺で捕手と打者走者がぶつかり、どちらも悪くない場合にはセーフのジェスチャーとともに「ナッシング」のコールをする。今まではノーボイスでセーフのジェスチャーのみだったが、捕手や打者走者には見えないことからコールすることとなった。
- ・本塁のクロスプレーを見る位置に注意すること。場所によってタグやベースタッチが見えなくなる。送球が来た時にプレイを予測してアジャストする。ただし、バタバタしないこと。

#### ○打球判定

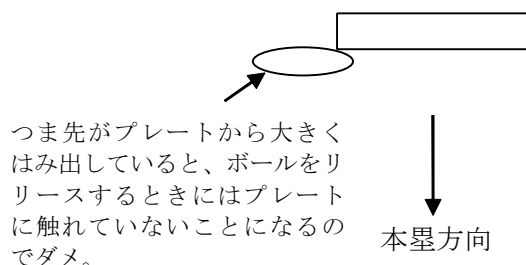
- ・ゴロの打球に関してはベースを通過したら直ぐに判定すること。
- ・外野飛球の場合、地面すれすれで捕るような打球は屈んで見る必要があるかもしれないが、高い位置の打球は屈むと視野が狭くなるのでスタンディングで見る。
- ・ホームランのジェスチャーは打った打者を褒め称える気持ちを込めて、大きなジェスチャーと大きな声で。

#### ○ランダウンプレイ

- ・同一塁上に二人の走者がいてタグされた場合には後者がアウトとなるが、しっかりどちらがアウトであるか走者を一人ずつ指さして「ユー・セーフ」「ユー・アウト」とコールする。また、コールはセーフを先にすることで、走者が勘違いして塁を離れるのを防ぐことができる。
- ・タグがあった時に走者を指して「オンザタグ」とコールする人がいるが、これは本来打者走者へのスワイプタグのみに使われるものであり、高校野球ではそれ以外のところでやらないこと。

○投手に関する説明

- ・ 捕手は投球を受けたら直ぐに投手へ返し、投手は直ぐに投球することが基本。
- ・ 軸足の置き方について投げるときにプレートから離れてしまう下図のような状況はダメなので注意して止めさせること。



○【座学】第87回選抜大会の振り返り（赤井委員長）

- ・ スリーフットレーンの内側を走ってはいけないということを、昨年の日本シリーズを例に監督会議で注意したことにより、今大会では1度だけ注意したのみだった。
- ・ 二塁走者の紛らわしい行為（打者にコースや球種を伝えていると間違われる行為）について、投球動作に入ったら腕を上げたりするような紛らわしい行為はしないようお願いしていく必要がある。
- ・ 球審は「目をつぶらない」ように努力する。最近の打者はベースに近づいて来るので死球なのか見極めなければならないし、ワンバウンドでの捕球なのか直接捕球なのかも見極めなければならない。打者近くの投球はトラッキングのみだけではなく顔や体を動かして見に行くことも必要かもしれない。
- ・ しっかり目を開いて見ていれば何を言われても自信をもって突っぱねることができる。選手はワンバウンドで捕ってもノーバウンドで捕ったようにアピールする。嘘つきの高校生を作らないためにもしっかりとみることが大事。

○【座学】手引きの変更点について（橘さんより）

- ・ 2015年度の規則変更についてはP14参照。
- ・ 高校野球特別規則の7. を新規に記載。規則3.05(d)は攻守交替で投手がファウルラインを越えたらその投手は第一打者がアウトになるか一塁に達するまで投球する義務があるというものだが、高校野球では伝令が交代を伝えるので投手にうまく伝わらずマウンドに向かってしまうことが多々あるので、規則適用除外としたもの。
- ・ 高校野球特別規則の15. にタイブレーク制を追記した。なお、16. の引き分け抽選制度とは併用できない。また、サスペンデッドの項目は削除となった。
- ・ 四人制メカニクスの二塁塁審が外に位置する場合で無走者・二死三塁の時は「三塁から二塁の延長線上からやや中堅より」とした。これは左翼手側の打球にも対応しやすくするためである。また、内野手が前進守備をとった場合の走者一・三塁の場合などは「一

塁から二塁の延長線付近」とした。これはケースによって位置を変えるためである。

- ・ 四人制メカニクス of 走者一塁・中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合のケースに GUIDE を追記した。これはこのような動きでも良いのではないかとということで記載しており、ぜひ研究してほしい。
- ・ 高校野球用具の使用制限については、必要以上に派手にならないための規則である。現場にて判断に迷うことがあるということで、できる限りわかりやすくなるように記載した。

— 受講者より「巨人の長野が使用しているズボンの上に被せるタイプのストッキングの使用許可が出たという学校があるのだが本当か？」との質問がありました。これはこの春の大会でこのタイプのストッキングで出場した高校があり、大会側が気付かずに試合を行ってしまったようで、このストッキングの扱いについては本部預かりでまだ正式な見解は出ていないとのことでした。

最後に、甲子園で判定されている講師の方々を見て、皆さんとにかく研究熱心で、どうすれば正しい判定ができるかだけでなく観衆にもしっかり伝わるかということをよく考えていると感じました。また、おどおどせず堂々としていて、「この審判が判定するのならその通りだろう」と思わせるような雰囲気醸し出していました。

それを見習いながら初心を忘れず、そして高校生の懸命なプレーにしっかり応えられるようこれからも精進していきたいと強く思いました。

非常に貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

以上

平成27年度 第55回全国審判講習会・日程〈受講者用〉（案）

主 催 日本高等学校野球連盟、朝日新聞社  
期 日 4月25、26日

第1日（4月25日）

（阪神甲子園球場）

10:00	講師集合	
10:20～10:40	受付（阪神甲子園球場6号門）	
10:40～10:45	点呼	
10:45～11:20	あいさつ （日本高等学校野球連盟 奥島 孝康 会長） （日本高等学校野球連盟審判規則委員会 赤井 淳二 委員長）	
	講師紹介・諸注意・日程説明	
11:20～12:10	三人制フォーメーションのイメージトレーニング	50
12:10～12:55	昼食・休憩	45
12:55～13:25	体操・ランニング・ジェスチャーの練習	30
13:25～13:40	球審の基本動作の説明	15
13:40～14:40	投球判定練習	60
14:40～14:55	フォースプレイの説明	15
14:55～15:25	フォースプレイの判定練習（2班に分かれて）	15×2
15:25～15:40	タッグプレイの説明（2塁・3塁）	15
15:40～16:20	盗塁の判定練習（2塁盗塁、3塁盗塁、2班に分かれて）	20×2
16:20～16:30	休憩	10
16:30～17:00	打球に対する反応と判定練習（1、3塁各塁で、2班に分かれて）	15×2
17:00～17:45	三人制フォーメーションの練習（走者なし、走者1塁）	15×3
17:45～17:50	クールダウン	5
17:50～	兵庫県立総合体育館に移動	

（兵庫県立総合体育館）

到着後～19:30	夕食	
19:30～20:45	・第87回選抜大会の振り返り、受講生からの質問事項 ・「平成27年度審判の手引き」変更点の説明 ・三人制フォーメーションの研修（本日の振り返りと明日の予習）	
20:45～	事務連絡 以下入浴など自由時間	

第2日（4月26日）

（兵庫県立総合体育館）

- 6:30 起床
- 7:00 朝食
- 7:50～8:10 移動（兵庫県立総合体育館→阪神甲子園球場）

（阪神甲子園球場）

8:20～8:50	準備体操、ジェスチャーの練習等（於：1塁側室内練習場）	30
8:50～9:50	投球判定練習	60
9:50～10:45	本塁周辺の想定プレイ	55
10:45～11:25	フォースプレイを主体とした塁上のプレイ	40
11:25～11:45	ランダウンプレイの判定練習	20
11:45～12:00	投手の投球・送球に関する説明	15
12:00～12:50	昼食	50
12:50～13:50	三人制フォーメーションの練習（走者1・2塁、走者1・3塁、満塁）	20×3
13:50～14:00	三人制フォーメーションに関する注意事項	10
14:00～15:00	試合形式の練習	20×3
15:00～15:05	クールダウン	5
15:05～	講評	



# 平成27年度・第55回全国審判講習会 参加者名簿

1班(緑色) = 若林、西貝、倉谷、金丸、高田

1	北北海道	櫻田	直久	44	幹事
2	宮城	鵜田	代志昭	53	監事
3	山梨	舟久保	博文	45	吉田・東部地区責任者
4	富山	丸池	満	47	幹事
5	三重	辻	健太郎	39	地区役員
6	兵庫	大上	博紀	37	技術指導員
7	香川	悴山	武男	50	
8	長崎	森山	真一	40	

4班(白色) = 長谷川、野口、宅間、永井

25	岩手	田口	直良	38	
26	栃木	川島	秀紀	43	新人育成指導員
27	東京	川上	哲生	42	
28	静岡	西谷	岳起	44	技術部員
29	奈良	長尾	典昭	29	
30	広島	池田	真吾	33	地区審判幹事
31	高知	柏井	伸二	37	
32	宮崎	小坂	学	32	

2班(水色) = 堅田、三宅、小林、美野

9	南北海道	千葉	智弘	43	幹事
10	福島	小澤	正吉	49	
11	千葉	越川	泰広	37	技術委員
12	石川	畑中	孝之	42	審判ブロック幹事
13	滋賀	磯辺	隆一	39	審判幹事
14	岡山	川口	雅之	52	
15	愛媛	小林	真治	42	
16	熊本	三嶋	由紀雄	51	理事

5班(桃色) = 橘、岸、金岡、前坂

33	秋田	三浦	和幸	41	技術指導員
34	群馬	小暮	和幸	56	幹事
35	新潟	福原	昌宏	35	
36	愛知	菊池	大介	31	技術部員
37	和歌山	天野	康正	29	
38	島根	瀧	真司	42	幹事
39	福岡	佐野	祐司	31	
40	鹿児島	大石	健司	45	支部審判長

3班(黄色) = 古川、田中、土井、乗金

17	青森	関	剣太郎	36	
18	茨城	永井	豊和	44	
19	神奈川	江崎	英俊	34	
20	福井	前田	豊広	50	会計幹事
21	京都	藤本	真治	45	若年審判指導員
22	鳥取	岩城	憲治	50	
23	徳島	福谷	貴弘	32	
24	大分	廣田	一喜	41	

6班(橙色) = 日野、大槻、尾崎、高野

41	山形	東海林	康	51	
42	埼玉	長谷川	靖	39	幹事
43	長野	飛沢	聡	45	北信支部審判幹事
44	岐阜	三瓶	真澄	54	幹事
45	大阪	五味多	和男	38	
46	山口	木月	健太郎	43	
47	佐賀	諸岡	浩二	42	
48	沖縄	玉代勢	秀人	53	